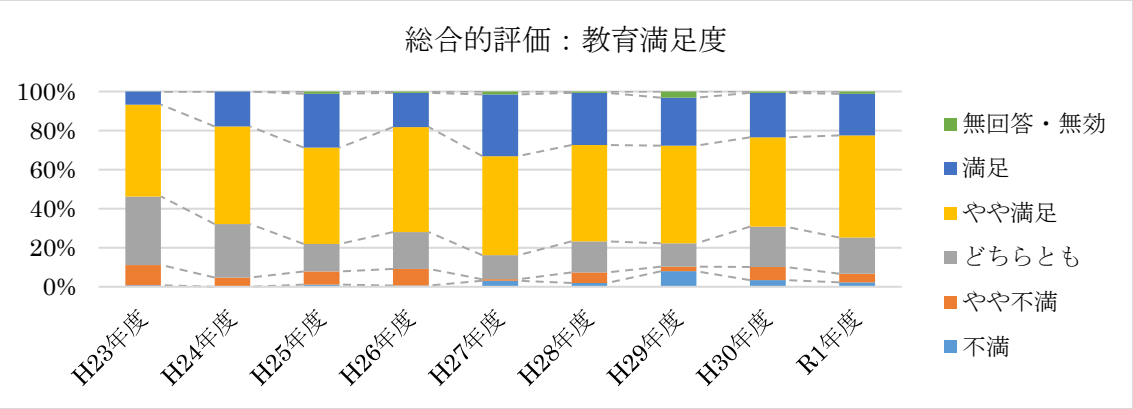
令和元年度卒業論文提出時調査結果概要

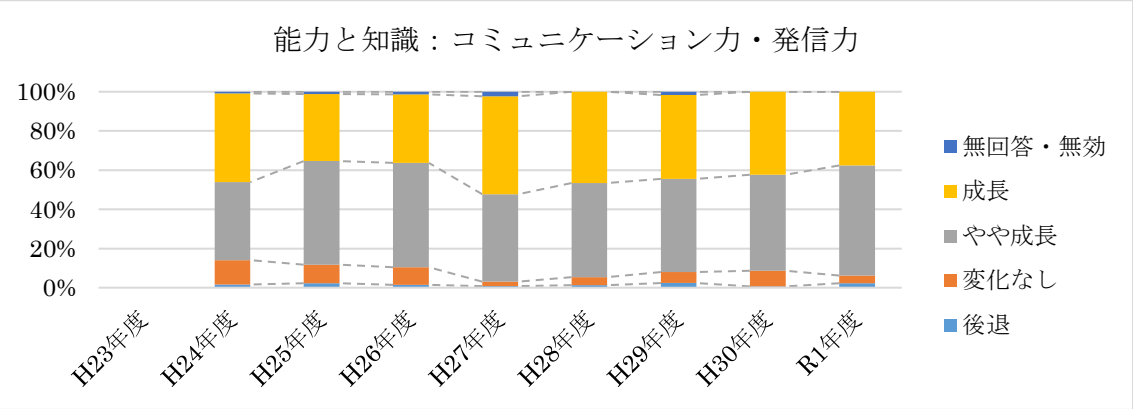
公益学部では、卒業論文を提出する 4 年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

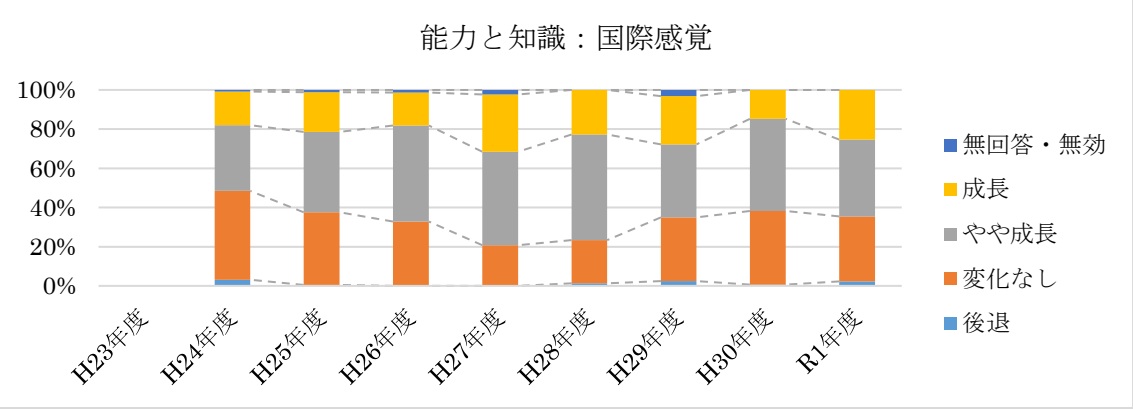
令和元年度（令和 2 年 1 月回収）は回収率 100%であった。

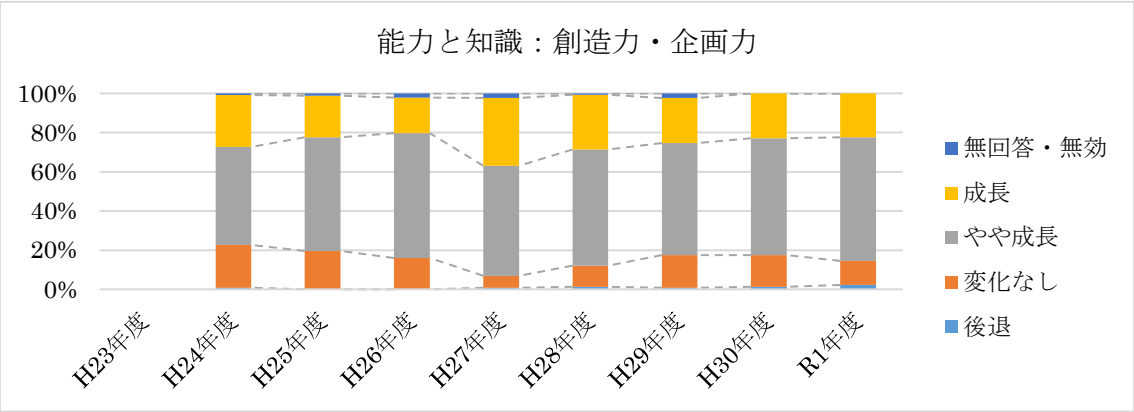
以下、重要な項目について分析結果を記す。

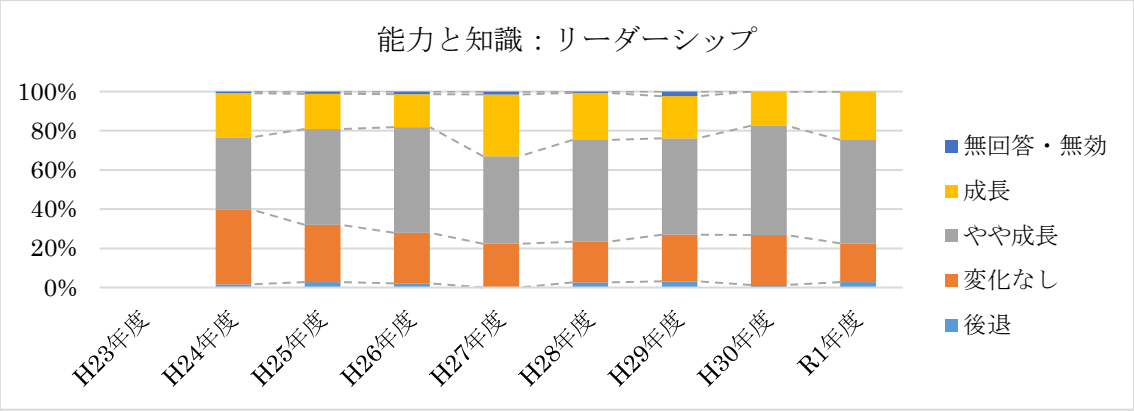


「満足」「やや満足」の合計が 73.6%と、前年度から 5%以上改善し、「不満」「やや不満」と答えた割合は 9.4%から 6.7%へと下がった。平成 26 年度入学生から導入された新しいカリキュラムが定着してきたことや、平成 28 年度に採択された「大学教育再生加速プログラム（AP）」の取り組みの成果が示されていると評価できる。

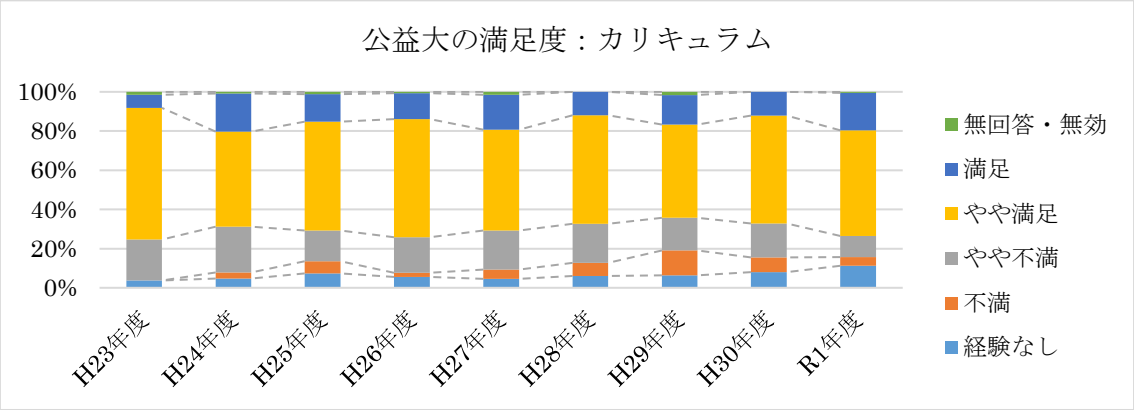








「国際感覚」が成長したとする回答が前年度の 14.8%から 25.3%、「リーダーシップ」が成長したとする回答が 17.4%から 24.7%と目立った伸びを見せており、4 人に 1 人はこの 2 つの能力と知識が成長したと考えていることが示されている。「コミュニケーション力・発信力」「創造力・企画力」についても、「成長」「やや成長」を合わせると前年度より増えており、平成 26 年度入学生から導入された新しいカリキュラムの効果が表れていると評価できる。



「満足」「やや満足」の合計が 73.0%となっているが、「経験なし」という回答を除くと 82.3%と、過去 9 年間で最も高くなった。上記の「能力と知識」の結果でも示されたように、平成 26 年度入学生から導入された新しいカリキュラムの効果が表れていると評価できる。